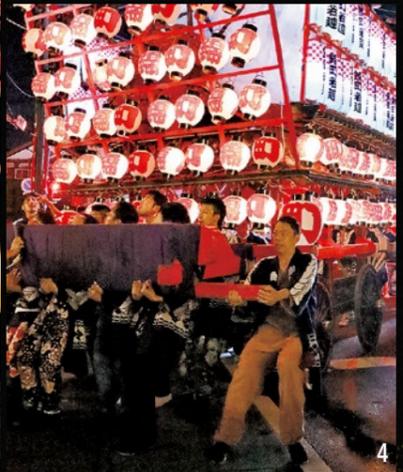


国見町重要無形文化財 鹿島神社例大祭



1_押し負けないように力を込める 2_軽快なお囃子が祭りを盛り上げる 3_真剣な表情で舞う稚児たち 4_山車を自由自在に操る若連衆(錦町) 5_迫力ある「もみ合い」に沿道から歓声があがる(本町) 6_若連衆の勇ましい掛け声が響き渡る(社元) 7_神輿の「宮入り」で祭りの盛り上がりは最高潮に 8_閉祭後も祭りの興奮は冷めない 9_何でもぶつかり合う山車と神輿(大町) 10_渾身の力を込めて山車を押す

国見町を代表する秋祭り「鹿島神社例大祭」が10月27日から28日にかけて、旧奥州街道藤田宿を中心に行われました。昨年は、コロナ禍の影響で規模を縮小しての実施でしたが、今年は子どもたちも参加し、以前と変わらない賑やかな祭りの風景が戻ってきました。

祭りの期間中は、軽快なお囃子の音色とともに神輿と4町若連の山車、稚児行列が町内を練り歩き、多くの人を魅了しました。

28日夜には、祭最大の見どころである「もみ合い」が行われました。2台の山車が、神輿を挟んで激しくぶつかり合う様子を間近で見ようと、多くの見物客が沿道に詰めかけました。

若連衆の勇壮な掛け声と、山車と神輿が何度もぶつかり合う轟音が響き渡るたびに、大きな歓声と拍手があがり、祭りの盛り上がりは最高潮に。大勢の観客が見守るなか神輿が鹿島神社へ還御を終えると、町は静寂に包まれ、祭りの幕が下ろされました。